

# まんだら通信

第260号 (通巻294号)

平成30年09月 西暦2018年 佛暦2561年 皇紀2678年

安房国八十八ヶ所 第一番札所  
295-0103 千葉県南房総市白浜町滝口1084  
真言宗智山派 天神山 紫雲寺 鈴木龍芳  
郵便振替 00120-2-43163 紫雲寺  
TEL0470-38-4740/FAX 0470-30-5040  
<http://www.shiunji.org/>  
Mail post@shiunji.org

## 施餓鬼会

今年も九月二十四日にお施餓鬼の法要をします。

この法要をお参りなされた方はお氣付きかも知れませんが、大勢のお坊さまがご本尊の前で法要を営んだ後、施餓鬼壇の前に座を移します。

この時導師に続いて一人のお坊さまが立ち上がり朗々と過去帳と呼ばれる巻物を読み上げます。集った人たちにこの法要がどのようなものか説明しているのですがおよその意味を十年前のまんだら通信から引用しておきます。



「お釈迦さまの一番のお弟子といわれた目蓮尊者のお母様が、あろうことか、我が子可愛さの余りの心にもない物惜しみの報いで地獄に堕ちました。これを悲しんだ目蓮尊者が、如来つまりお釈迦さまに教えを戴いた通りに、大勢のお坊さんを招いて供養したところ、お母様はたちまち地獄から救われたのでした。

源仁僧都や弘法大師なども、亡き人への供養は欠かすことがありませんでした。高僧といわれる昔の人達さえそうだったので、後世の私たちは尚一層励まなければならぬのです。

今ここで、回向をする人々は、インド・中国・日本と仏教を伝えた高僧達を始めとして、七代まで遡るほどの親類縁者殊にお檀家の皆さんがお塔婆を供えて供養を志す霊位など、数えることもできません。

さらに、世界中の内乱・飢餓・天災などで命を失い、弔われることのない沢山の有縁無縁の幽魂たちよ、どうぞ、この清らかな場所に集り甘露の法味に浸ってお浄土に生まれることが出来ますように。」

当日は午後一時半より法要を行います。法要の後今年も館山市塩見の善栄寺の御住職寺田僧正がご法話をしてくださいます。皆様お誘いあつてお参りください。

尚、お塔婆の申込書は世話人さんを通してお配りしておりますが、電話等で紫雲寺にお申し込みいただいても結構です。直接のお申し込みは二十三日までお受けします。

## お墓ボランティアどうでしょう

「墓じまい」という言葉を頻繁に聞くようになりました。ご自分が入るべきお墓はあるけれどもゆくゆく墓を守ってくれる人がいなくなるのがわかってるので今のうちにお墓をしまいたいと言う方が増えています。

紫雲寺にも密蔵塔という合葬墓があります。もちろんご自分の家のお墓をしまつてそちらに御先祖のご遺骨を移していただくこともできます。

けれども費用の面などいろいろ大変なこともあります。また、それにも増してお墓はご自分やご両親が苦勞して建立した大切な財産です。ご家族の気持ちの抛り所であることもあるでしょう。

紫雲寺では以前からお墓参りが難しい方には私たちが代わってお参りします。とお話してきました。しかし、他人さまに迷惑をかけたくないとおっしゃる方々もいます。

そこで、同じ悩みの方同志助け合うのはどうでしょうか。

ご自分が都合のつく間に他のお宅のお墓の掃除等をする、そして都合がつかなくなつた時は他の方にお願ひするというしくみが作れないものかと思っています。

よい知恵をお持ちの方、またお困りの方ご連絡ください。まず、手を挙げていただければ解決の方法がみつと見つかると思います。

余談ですが、当寺の過去帳には江戸時代、明治ごろまで宿で倒れた方々の記録があります。宿のご主人が葬儀をして小さなお墓を建てたものと思います。どこの誰とも分からない人のご供養をした宿のご主人も懐の深い方だったと感心しますが、現代までそのお墓を代々守つてこられたご子孫にも頭が下がります。

## にっぽん人情小噺 三遊亭鳳豊 第一一二話 生徒との約束

先日、地元の新報を見ていましたら、公立の小・中・高の先生方の昇進・異動の一覧が紙面を何ページも独占しておりました。新任の校長先生の紹介は写真入りでした。いやあ、驚きましたね。女性の校長先生の多いこと。私が子供の頃は、女性の担任の先生はいらっしゃいましたが、校長先生はほとんど男性でしたから、ここにも時代の流れを感じますね。

こんな小噺があります。

「ほら、起きなさいよ、いつまで寝てるの?」

「ぼく、起きたくないよ。」

「学校に行かなきゃダメでしょ。」

「行きたくないよ。先生たちは意地悪だし、生徒たちにはからかわれるし。」

「ダメ、それでも行くのよ、早く起きて。」

「なんで、学校に行かなければいけないの?」

「だって、あなた、校長でしょ。」

まあ、そんな馬鹿なことはないと思いますが……。今日は、ある地方の小学校の女性の校長、加藤敦子（仮名）先生から聞いた話です。

加藤先生が校長を務める小学校は、地方の小さな町の駅の近くにありました。もう少し詳しく言えば、第三セクターで、駅長さんひとりしかいない駅を出ると、目の前が二車線の国道で、歩道橋を渡って向こう側に行き、細い道を曲がった住宅街の一角にその学校がありました。全校生徒の数は三百人前後だそうですから、いまどき、地方なら普通の小学校かもしれません。

加藤先生は、赴任して二年目。女性の校長先生らしく、きめ細かな教育をモットーに、子供たちとやさしく接していました。特に、先生が大事にしていたことは、「約束を守る」ということでした。

加藤先生は、校長になる前から、ことあるたびに太宰治の「走れメロス」の話をして、子供たちに「約束」の大切さを訴えていました。

純朴な羊飼いのメロスが、妹の結婚のための調度品を買おうとある町を訪れると、そこには人間をまつたく信じない暴君が君臨し、人々を苦しめていました。激怒したメロスは王の暗殺を企てましたが、捕らえられ、処刑されることになったのです。メロスは親友のセリヌティウスを身代わりの人質にして、王に「三日後の日没までに帰ってくるから、処刑を待ってほしい」と懇願し、妹の結婚式に向かったのです。メロスは急いで村に帰り、妹・の結婚式を済ますと、誰にも何も告げずに処刑されるためにだけ、王宮に戻ろうとしました。ですが、川の氾濫で橋が流されたり、山賊に遭ったりして、無理を重ねたメロスは疲労

困俎になり、一度は王のもとへ戻るのをやめようとおもいました。でも、冷たい湧き水を飲むと、元気が出たので、再び約束を果たすために、王宮に向かつて走っていき、まさに友が処刑される寸前に王宮にたどり着きます。そして、親友に打ち明けるんですね。「一度だけ、君を裏切ろうとした」つて。すると、セリヌティウスも、「僕も一度、君が戻ってこないかもしれないと思って」と言う。それを聞いた王が、この世には信じられる人間もいるのだと反省し、ふたりを解放したという、教科書に載っていた話ですよ。

先生は、その話をしながら、この学校では赴任以来、特に「交通安全」に関することを生徒に約束させました。というのは、赴任するひと月前に、駅近くの国道で、生徒が慄かれて亡くなってしまったからです。歩道橋を渡らずに、国道を横切ろうとしたことが原因でした。

「いいですね、皆さん、どんなに急いでも、歩道橋を渡るのですよ。校長先生と約束してくださいね」

新学期の挨拶の最後は、いつも、この言葉で終わりました。もちろん、先生が赴任以来、生徒の交通事故はありません。

そんな加藤先生に「事件」が起きたのは、秋のある午後のことでした。その日の放課後、「主人が心筋梗塞で救急車で運ばれた。すぐに病院に来てほしい」という知らせが携帯電話に入ったからです。先生は、時刻表を見ました。すると、次の電車は五分後です。それに乗れなければ、あと四十分待たなければなりません。

先生は、事情を教頭先生に話し、学校を飛び出しました。国道に出ると、遠く線路の向こう側から電車が駅に向かってくるのが見えました。（歩道橋を上がっていたら、間

に合わない！）咄嗟に、そう判断して、国道を横切り、電車に飛び乗りました。幸い、救急救命センターの処置のおかげで、ご主人の意識は回復しました。

その翌日放課後のことでした。小学一年生の担任の先生が、教頭先生と校長室にやってきました。そして、こう聞いたのです。「校長先生。きのう、歩道橋を渡らずに国道を横切りましたか」と。校長先生は「はっ！」としました。「誰がそんなことを言ったの」「うちのクラスの伊藤優奈という子ですけれど……」校長先生は、お約束を破った」というんで、何かなと思って聞いたんですけどね。

校長先生は、「はい、先生、その通りですよ。昨日、私はみんなとの約束を破ってしまいました。伊藤優奈ちゃんですね。明日、昼休みにここへ連れてきてください」と言ったそうです。

翌日、優奈ちゃんが担当の先生に連れられてやってきて、いきなりこういって泣き出したのです。「校長先生、ごめんなさい！」。校長先生は優奈ちゃんを抱きしめると、言いました。「ごめんなさいね、優奈ちゃん、悪いのは校長先生です。私がみんなとの約束をぶつたのだから。優奈ちゃんは見えていたのね、私が国道を走って渡つたのを。優奈ちゃんがそのことを誰にも言わなかったら、私はみんなとの大事なお約束を破つたことに気付かなかつたかも知れないわ。ありがとう、優奈ちゃん」

そして校長先生は、翌日の朝礼の時に、優奈ちゃんの勇気を褒め、全校生徒の前で土下座をして謝ったそうです。何故、そうしなければならなかつたか、言い訳を一切、せずに。

いつか、どこかで、だれかと交わした「約束」、あなたは覚えていますか？

▼あそか基金、今年度の基金をアンギラサ師にお渡ししました。皆様からの暖かいご支援等34万円をお渡しすることができました。▼カラスウリ。ウリ科カラスウリ属 八月の夜に咲きます。今は実が大分大きくなっていますがまだ緑色です。オレンジ色になった実からタネを出して、ままごと遊びで納豆の代わりにした思い出があります。

2018/09/11 龍芳



来ると思いますが、大切なのは心と自分に言い聞かせて励みたいと思います。今後ともどうぞよろしく願いいたします。▼今年も無事にお盆の棚経をさせていただきました。短い時間ではありますが、みなさまとお目にかかれる貴重な機会でもあります。たくさんの優しいお言葉をいただきました。ありがとうございます。▼7月16日近隣のお坊様方に父の新盆の法要をしていただきました。その折、密厳塔の隣に毛利石材さんが作って下さった新しい墓地にお骨を納めました。暑い中、お集まりいただいた皆様ありがとうございました。

## 余滴

▼諸々の事情から長いお休みをしておりましたが、まんだら通信ですが、やっと今月はお届けすることができます。ご心配して下さった方々、ありがとうございます。紫雲寺一同元気です、ということをお伝えたくて重い腰をあげた次第です。父が愛用して止まなかったこのパソコンですが、縦書きソフトがバージョン遅れになり不具合がでてきました。突然、アプリケーションが終了して、また書き直しという事態が度々起こります。心配した次男がウィンドウズのパソコンを買ってくれました。しかし今度は使い手の技量が新しいパソコンについて行けません。近いうちにウィンドウズ版のまんだら通信をお届けする日が